

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270200110		
法人名	社会福祉法人せんだん会		
事業所名	グループホームかがやきの園		
所在地	島根県安来市安来町960-1		
自己評価作成日	令和元年11月15日	評価結果市町村受理日	令和2年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和元年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①ご家族とのつながりを大切に、ご家族と共に利用者の生活を支援しています。
- ②ご利用者同士で快い関わり合いができるよう支援しています。
- ③五感で季節を感じ、新鮮な空気を吸っていただける機会を多く作っています。
- ④ご利用者の「できること」に眼を向け、「できなくなりつつあること」は「どうしたらできるようになるか」を共に考え意欲や自信につなげます。
- ⑤ボランティアのご協力により、趣味活動の充実につなげます。
- ⑥暮らしの中に音楽を積極的に取り入れ、心身の健康につなげます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎年、具体的な支援方針を立て年度初めに利用者、家族を交えた運営推進会議で報告している。一人ひとりの利用者の持っている力、出来ることに目を向け、編み物や漬物、保存食作りなどこれまでの暮らしが継続出来るように支援している。日常の会話から意識的に利用者をつぶやき「やってみたいこと・食べたいもの・行ってみたい場所」を引き出し、家族やボランティアの協力を得て利用者は新たな趣味活動や外出を楽しむ生活をしている。職員は知識、技術の向上に取り組み、毎朝5分間の接遇ミニ研修を継続し、利用者の尊重、自己決定しやすい言葉かけを学びケアに活かし支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1か月に1回、月初めの朝礼で、唱和し確認しあっている。年度初めの運営推進会議において、事業所理念と運営方針を紹介し、具体的な取り組みについてもご本人、ご家族、地域の方々にご理解いただいている。	年度初めに全職員で法人理念に基づいた支援方針を作り、施設内研修や会議、朝礼で確認し日々のサービスに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	車で3分程の市役所やスーパーマーケット、歩いていける図書館、郵便局などに日常的に出かけて交流をしている。	日常的に近くの図書館、郵便局、喫茶店へ出かけている。毎年スーパーマーケットで作品展を開催したり、ボランティアの協力を得て趣味活動を継続するなど地域との関係が出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	安来市の認知症カフェの活動に職員が参加し、グループホームでの日頃のケアを活かして、地域への貢献ができるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、日常の利用者の生活の様子を報告するだけでなく、他事業所の活動の様子を教えていただき当事業所の運営に参考にさせていただいている。	利用者の生活状況や事業所の取り組みを報告している。研修報告から感染予防や防災訓練について意見をもらったり、家族からは率直な思いを聞きケアに反映させるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、毎回、市や包括支援センターの方が委員として参加し、アドバイスをいただいている。	日頃から情報提供や意見交換、相談を行い協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を3か月に1回開催し話し合うとともに、毎朝の接遇ミニ研修において、スピーチロック、不適切ケアの内容を取り入れたロールプレイを積極的に取り入れ実践に生かしている。	会議や研修を重ね職員は理解を深めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。一人で階下に下りたい利用者の行動を止めず見守る支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	1年に1回、職員会において施設内研修を行い、外部研修に参加した職員が報告研修を行うなど、共に学び実践する機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護推進員養成研修を修了した職員が中心となり、職員同士で話し合う機会を持ち日々のサービスにつなげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始前の見学を柔軟に受け入れ、サービスについての具体的な疑問点を聞いた上で、契約時には、重要事項説明書により説明をさせていただき、ご理解をいただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の暮らしの中でのご利用者のつぶやきをキャッチし、担当者会議で共有している。ご家族の面会時に要望を伺ったり、電話で様子を伝えた上でご意見を聞き、サービスの向上につなげている。	家族の面会時には座ってゆっくりと話を聞き意見や要望をサービスに反映させている。毎月介護相談員の訪問があり利用者の思いを聞いてもらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の、職員会、担当者会議、運営委員会などで、広く職員の意見を聞く機会を設けている。日々のミーティングにおいても、業務改善の提案をしやすい環境作りに努めている。	管理者は日頃から話しやすい雰囲気づくりを心がけている。職員の思いや気づきは会議やミーティングで検討し運営に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度初めに各職員から、年度自己目標を提出してもらい、目標実現に向けてのフォロー体制を作っている。就業時間内のできる限り業務がこなせるよう、個々の仕事量や能力に合わせたアドバイスを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の新人職員研修・中堅職員研修・指導的職員研修など能力や立場にあった研修で自己研鑽ができるようすすめている。また、メンター制により、新人職員が気軽に相談ができる環境作りも行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のオレンジカフェに職員が数名ボランティア参加し、地域の同業者の方と気軽に交流したり、法人内の研修でグループワークを行う、研究発表会で発表しあうなどネットワークづくりができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の見学を柔軟に受け入れ、ご家族と共に事業所の雰囲気や、暮らしの様子を知っていただき、具体的な不安や要望を聞かせていただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	できる限りご家族の立場に立って入居に際してのご相談を聞き、信頼関係ができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の不安、要望などを、じっくり伺い、当事業所が受け入れ支援できる内容を説明させていただいている。当事業所のみでは対応できないことがあれば、ネットワークを通じ他サービスを紹介するなどもしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の暮らしの知恵や料理法、地域の歴史など、経験豊富なご利用者から、教えていただく機会も多い。孫のような年齢の職員もあり、互いに支えあう関係ができている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々のケアが職員のみでは、解決できない状況にあった時など、面会に来られたご家族にアドバイスを求めることも多い。ご家族から、労いや感謝の言葉をかけていただき、次の支援に前向きになれることもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの職員と自宅のある地域にドライブにでかけたり、行きつけだったお饅頭屋さんに懐かしい味のお饅頭を買いに行ったりなどたのしみにつなげている。	家族の訪問や馴染みの店で買い物をするなど関係が途切れないよう支援している。馴染みの人に年賀状を出す人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の中で利用者同士で気の合う方、コミュニケーションがとりにくい様子の方など、個々の関係を理解するようつとめている。難聴の方や目の見えにくい方など、個々の状況に合わせ、利用者同士の間に入り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後の利用者や家族との関係を継続し、入院、入所中の利用者を訪ねたり、ご家族へ経過を電話で訊ねたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりで、「食べたいもの」「行ってみたい場所」「やってみたいこと」などを、さりげなく聞き、暮らしの中で一つずつ実現できるよう努めている。	利用者のつぶやきや表情から気持ちを汲みとるよう努めている。つぶやきノートに記録し出来る要望はケアに繋げ、困難な場合でも本人本位で実現できるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービスの始まりの前に、ご家族から、生活歴や生活のこだわり、趣味やたのしんでこられたこと、苦手とされること、食べ物の好みなどをお聞きし職員間で周知把握した上で、ケアに生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の「できること」「できにくくなりつつあること」「理解する能力」など、変化する現状を、都度発見したり気づいたりできるよう努め、職員間で情報共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の立場に立った視点で、日々の困りごとや望みは何かを引き出し、多職種のアイデアを出し合いながら、より具体的で、前向きな介護計画になるよう努めている。	作成者は利用者、家族の意見を反映した介護計画になるように必要な関係者と話し合い、利用者主体の介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は、活動面と体調面の内容に分け行い、記録者と確認者が共に書きやすく見やすいスタイルに改善している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方から面会に来られたご兄弟の宿泊を受け入れ、事業所の食事を提供するなどの柔軟なサービスを提案している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の道の駅、スーパーマーケット、図書館、散髪屋さんなど、多くの地域資源の力を活用し、入居前と同じような暮らしの楽しみを持ってもらっていただけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域の行きつけの内科医、歯科医、眼科医などがあり、状況により、往診もしていただいている。熱発などの際は、かかりつけ医に電話で相談を受けてもらい、対応のアドバイスをしてもらえるなど心強い存在である。	定期的な訪問診療で適切な医療が受けられるようにしている。急な受診や眼科などは家族と連絡をとり職員が同行し支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当グループホームに看護職員はいないが、同じ建物内のデイサービスの看護職員から状況に応じたアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	月に1回の往診時に、生活状況や体調について細かく報告、相談をしている。馴染みの主治医には、ご本人も、気軽に体調の相談をされている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	運営推進会議で重度化した場合の対応について、質問されることがある。入居中の他利用者の状況や、ご家族の協力体制、医療の必要性など、その時々、事業所の対応できる力により、一緒に検討させていただく旨を説明している。	入居時に重度化や終末期に向けた対応を説明し理解を得ている。利用者、家族の思いを尊重し法人施設とも連携して支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修において、事故発生や体調急変時の対応について研修をおこなっている。また、地元の消防署から緊急時対応の講師としてきていただき、実践につながる指導を受けた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間、日中の火災を想定した避難訓練や、緊急連絡網の抜き打ち訓練など、計画的に実施し、消防署の立ち合いも受けている。	緊急時は法人施設と応援協定があり訓練を行っている。夜勤者は業務に入る前に必ず日誌内の「夜勤時防火・避難誘導マニュアル」に目を通している。水害時のマニュアルも作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇ミニ研修を毎日行い、不適切な言葉かけをしていないか、職員同士で確認しあい、サービスの向上ができるような体制作りをしている。	利用者を尊重し、自己決定しやすい言葉かけが大切であることを意識し対応している。目線を合わせ、ゆっくりと分かりやすい言葉で話すようにしている。毎日接遇ミニ研修を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意思を尊重した疑問形の言葉かけを心がけ、職場全体で権利擁護推進に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の職員間のカンファレンスを行う際は、利用者の視点に立った、支援方法であるかを確認しあうようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の身だしなみのこだわりを把握し、毎日身に付けられる衣類や髪形など、たのしんでいただけるよう関わっている。「よく似合いますね」「すてきですね」などの、誉め言葉は、喜びにつながっている様子である。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものの問いに、利用者個々が答えて下さるものは、毎月、できる限り実現できるようにしている。誕生日会で好みのお寿司や、茶わん蒸し、ぜんざいなど一緒に作り味わっていただいている。	盛り付けや後片付け、食器洗いなど利用者の力を活かし行っている。職員も同じ食事でテーブルを囲み和やかな場面づくりをしている。希望の誕生日献立やおやつ作りも一緒に調理し楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病により摂取カロリーの制限がある方もあるが、できる限り満足していただけるよう栄養士と相談し工夫している。一日を通して1500ccの水分摂取をしていただけるよう、飲み物の種類や進め方を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員に歯科衛生士がおり、専門家の視点で個々の状況把握をし、職場内の介護職員に適切な口腔ケアができるよう指導しチームで実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の、排泄動作の状況や、リズムを把握共有し、適切な声がけ誘導、介助方法ができるよう、担当者会議や日々のカンファレンスで話し合っ共有している。	一人ひとりの状況を把握しその人に合わせて必要な声掛けや誘導をしている。今出来ていることが少しの介助で引き続き出来るように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の身体状況に応じ、楽しみながらできる運動メニューを提案しすすめている。確実な水分摂取促進の他、繊維質の多い食材など食事内容にも工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1対1で入浴準備からゆっくり関り、入浴を好まない方にも、快く入っていただけよう声がけや対応を工夫している。一人で入浴される方もある。	週3回入浴は状態によりシャワー浴の人もあるが、午後から夕方にかけてゆっくりと、時には歌いながら楽しんで入浴出来るように対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、短眠や不眠傾向にある場合は、室温や照度、不安感、空腹感、掻痒感などを確認し、都度の状況にできる限り対応できるよう小まめな配慮を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容をチームで把握しやすいよう管理し、変更があった場合は、体調変化がないか、注意しあいながら支援している。服薬介助は、マニュアルに添って行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしの中で、個々の利用者の好みや心身の状況にあった役割をお願いしている。小さな役割も続けることで、達成感や自信、喜びにつながるよう、感謝の言葉を忘れず伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「羊羹が食べたい」と話された利用者として、軽自動車でお店に、地元の羊羹を買いに行き15時に皆さんとお茶会をしたり、2週間に1回、近くの図書館に本を借りに行かれたり、外出が日常の気分転換やたのしみになるよう支援している。	その日の希望に柔軟に対応している。少人数で外出しゆっくりと買い物や見物をしたり、外食の機会も多くつくり利用者が楽しめるよう支援している。季節に合わせて花見やドライブに出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近くのパン屋さんで好みのパンを購入したり、スーパーマーケットでお饅頭を選び買い物をしていただいたりなど、社会生活を継続できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の暮らしや近況がわかる園だよりを、季節ごとに送らせていただいている。年賀状に自筆でご家族に挨拶をされる方もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、本棚やソファなどを置き、できる限りくつろぎ安らいでいただける雰囲気作りに努めている。季節の花やしつらえ物で、季節を感じたのしんでいただけるよう工夫している。	手作りのちぎり絵や布の干し柿、季節の生け花など飾っている。ホールにはテーブルや長椅子、ソファを置きゆっくり過ごせるようにしている。利用者が毎朝、霧吹きを欠かさない観葉植物は大きく育ち居心地よい共用空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方との快い関わりがたのしんでいただけるよう座席を配慮したり、時には一人でのんびり窓際で空を眺めながら過ごしていただけるソファを置くなど、工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた、家具や大切な仏壇などを持参され、ご家族と配置をされている。夜間トイレに起きられた時に、安全に移動できるよう、導線に配慮しアドバイスをし、ご理解いただくこともある	家具やテレビ、写真、手作り作品など自分好みの居室にしている。ベット横に椅子を置き車いすへの移動が安全に出来るようにしている。小さな鉢植えの花を大切にお世話する利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間目が覚めて、気になる持ち物などが近くの手元にあると安心して自分の時間を過ごされる方には、都度、環境整備をさせていただくなど、状況に応じた支援も行っている。		